社会福祉法人十字の園
法人本部事務局
〒431-1304 静岡県浜松市北区細江町中川 7220-11
TEL 053-436-9535　FAX 053-437-1352

社会福祉法人 十字の園施設一覧

社会福祉法人十字の園は 1961 年（昭和 36 年）、法人第一号施設（日本最初）特別養護老人ホーム「浜松十字の園」開設以来、地域の要請に応じ、静岡県内において高齢者・障害者施設を設け、事業を運営しております。

■社会福祉法人 十字の園

法人本部
〒431-1304 静岡県浜松市北区細江町中川 7220-11
TEL 053-436-9535　FAX 053-437-1352
http://www.jyuji.or.jp/hojin/

■特別養護老人ホーム

浜松十字の園
〒431-1304 静岡県浜松市北区細江町中川 7220-11
TEL 053-436-9535　FAX 053-437-1352
http://www.jyuji.or.jp/hamamatsu/

御殿場十字の園
〒412-0023 静岡県御殿場市深沢 1465-1
TEL 0550-83-1999　FAX 0550-82-5189
http://www.jyuji.or.jp/

伊豆高原十字の園
〒413-0232 静岡県伊東市八幡野 1023-2
TEL 0557-54-1613　FAX 0557-54-2484
http://www4.i-younet.ne.jp/~izujuuji/

松崎十字の園
〒410-3624 静岡県賀茂郡松崎町江奈 157
TEL 0558-43-3131　FAX 0558-43-3136
http://www.k5.dion.ne.jp/~matuzaki/

■ケアハウス

アドナイ館
〒431-1304 静岡県浜松市北区細江町中川 7437-8
TEL 053-439-1200　FAX 053-439-1211
http://www.jyuji.or.jp/adonai/

御殿場アドナイ館
〒412-0023 静岡県御殿場市深沢 1465-1
TEL 0550-81-5770　FAX 0550-81-5771
http://www.jyuji.or.jp/newpage18/

■養護老人ホーム

伊東市立養護老人ホーム（平和の杜）
〒414-0051 静岡県伊東市吉田 825 番地の 1
TEL 0557-45-0586　FAX 0557-45-2078
http://www.jyuji.or.jp/heiwanomori/

■障害者支援施設

オリブ
〒410-3624 静岡県賀茂郡松崎町江奈 157
TEL 0558-43-3131　FAX 0558-43-3136

2007.9.1 発行

THE JUJINOSONO Social Welfare Corporation

夕暮れになっても光がある

社会福祉法人 十字の園

わたしはぶどうの木、
あなたがたはその枝である。
人がわたしにつながっており、
わたしもその人につながっていれば、
その人は豊かに実を結ぶ。
わたしを離れては、
あなたがたは何もできないからである。

ヨハネによる福音書　15章5節

I am the vine,
and you are the branches.
Whoever remains in me,
and I in him,
will bear much fruit;
for you can do nothing
without me

JOHN15 : 5

あいさつ

社会福祉法人十字の園は1960年（昭和35）年12月28日に法人が認可され、翌年1月20日に生活保護法の保護施設「浜松十字の園」の事業が始まりました。これが日本最初の特別養護老人ホームの誕生であり、老人福祉法制定時におけるモデルともなりました。その後、地域のニーズに応えるように、静岡県内の御殿場、伊東、松崎、浜松の地に特別養護老人ホーム4施設、ケアハウス2施設、身体障害者療護施設を設立し、2005年4月には伊東市立養護老人ホームを管理受託事業として運営するようになりました。

「夕暮になっても光がある」（ゼカリヤ書14：7）は、十字の園の理念の聖句であり、「事業の目標」でもあります。二代目綿鍋義典理事長が30周年記念誌に記された「神の愛のうちに包まれて、この世に生きる喜び。十字架の信仰により、一切の罪から開放され、自由な者とされた感謝。復活の信仰による永生の希望。」の言葉から、「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。」を法人の理念の言葉としました。

社会福祉法人十字の園には、これまでの歴史の中に培ってきた伝統と精神という財産があります。また、新しい時代に向けて挑戦し創造する知恵と力を蓄えてきました。「十字の園における福祉の創造～既に据えられている土台の上に～」をテーマにこれからも歩み続けたいと思います。

理事長　平井　章

設立趣旨

1961（昭和36）年作成の施設要覧の中に「趣旨」として次の文章が掲載されました。法律も制度もない時に、要介護者の老人ホーム（現特別養護老人ホーム）設立の趣旨は、今の十字の園にとっても大切なメッセージです。

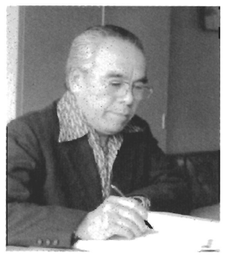
『ややもすると光明を失いがちな病弱者もキリストの復活の信仰に接することにより、明るく生き甲斐を感じる日々の歩みを楽しく讃美しつつおくっております。健康者も自己の生来保持する機能を生かし自発的に山仕事に、畑の整地に、思い思い工夫をこらして生活を楽しんでおります。従って、入園後は皆非常に若返り、老化現象も薄らぎ全身の機能が回復し、社会復帰をさえ考える程です。しかし、私たちの目標とするホームは日ごとに生き生き生活する所であり、生存するだけであってはいけないと思います。』

社会福祉法人十字の園は、キリスト教の精神に立って、 福祉サービスを必要とする方々が、生き生きと、その人らしく生活するために、地域において必要な福祉サービスを総合的に提供し援助することを目的に福祉事業を行います。

ハニ・ウォルフ　Hanni Wolf

1914年	（大正3）5月5日	イギリスリバプール生まれ
		父が早くなくなったため、家族はドイツへ。ハニ姉妹は兄弟たちとドイツで育つ
第二次世界大戦中		栄養士の資格を生かし、家庭の食事等の相談の仕事に従事
1946年	（昭和21）	シュベスターとしてディアコニッセに加わる
		病気の人たちの看護を行う
1949年	（昭和24）	母の家姉妹団に参加を決意
1953年	（昭和28）11月	ディアコニッセとして祝福式を受け、日本へ
1954年	（昭和29）	聖隷准看護婦養成所臨時教務主任代行
		第1回「浜松ディアコニッセ母の家」理事会開かれる
1956年	（昭和31）	第1期母の家姉妹たちの教育課程を実施
1957年	（昭和32）	ハニ姉妹以外のディアコニッセ次々帰国へ
1959年	（昭和34）	ハニ姉妹一時帰独（1月～4月）
		ドイツ滞在中、老人ホーム建設のため600万円の献金を受ける。
	12月29日	法人設立 老人ホーム創設準備会開かれる
1961年	（昭和36）1月	十字の園開園
1966年	（昭和41）3月	ハニ姉妹帰国
		帰国後、アゼンハイムの老人ホーム責任者として働く。
		70歳からはミュンスター母の家で事務仕事や、会計、教会の献金の仕事を担当
1996年	（平成8）10月27日	召天

鈴木生二　Seiji Suzuki



1918年	（大正7）7月6日	静岡県引佐郡伊平村生まれ
1945年	（昭和20）12月	財団法人聖隷保養農園に勤務
1947年	（昭和22）1月	フミ夫人と結婚
1949年	（昭和24）	都築先生による外科手術成形充填第一号となる
1954年	（昭和29）9月	聖隷厚生園創設　次長（実質上の責任者）
1959年	（昭和34）9月	「母の家理事会」にて老人ホーム創設準備責任者に推薦される
	11月	母の家の一室で準備事務に
	12月24日	鈴木氏が法人設立、老人ホーム建設について県庁から内諾を得る
1960年	（昭和35）3月	ハニ姉妹、十字の園設立に専念
		フミ夫人病院での看護婦の仕事をやめ老人ホーム開設に従事
	10月	綿鍋義典氏老人ホーム参加決定
	12月4日	献堂式
	12月28日	社会福祉法人十字の園創立、理事長に就任
1961年	（昭和36）1月	十字の園開園
1971年	（昭和46）4月	御殿場十字の園を開園
1981年	（昭和56）4月	伊豆高原十字の園を開園
1985年	（昭和60）2月	発病
1988年	（昭和63）9月17日	召天

十字の園の歩み

1930 昭和5 | 1940 昭和15 | 1950 昭和25 | 1960 昭和35 | 1970 昭和45 | 1980 昭和55 | 1990 平成2 | 2000 平成12 | 2010 平成22

ドイツより「ディアコニッセ」5名来日

1934年（昭和9）
「イエスの友会」全国大会にて「もの言う手」が上映される。
1945年（昭和20）
鈴木生二、（財）聖隷保養農園に勤務開始。
1946年（昭和21）
西ドイツブレーメン教区長P.G.メラー牧師来日。賀川豊彦、長谷川保に会い、日本委員会がディアコニッセの派遣を準備。
1953年（昭和28）
ドイツよりディアコニッセ5名来日。
1954年（昭和29）
鈴木生二、創設された聖隷厚生園の次長（実質上の施設責任者）となる。ハニ・ウォルフ姉妹、看護婦養成所臨時教務主任代行となる。
市川一二三、山浦ミツ、立志式でディアコニッセに。

ディアコニッセ

十字の園老人ホーム建設開始
生活保護法に基づく保護施設 十字の園老人ホーム（30床）開園。

1959年（昭和34）
〈1～4月〉ハニ・ウォルフ一時帰独し、600万円の募金を集める。
元目町の浜松診療所を聖愛園の敷地に移し、新たに聖隷浜松診療所として発足。
1960年（昭和35）
十字の園老人ホーム建設開始。
〈11月〉社会福祉法人聖隷保養園より敷地2,406坪の無償譲渡を受ける。
〈12月〉社会福祉法人十字の園設立認可。
初代理事長に鈴木生二就任。
1961年（昭和36）
〈1月〉生活保護法に基づく保護施設十字の園老人ホーム（30床）開園。
★長谷川保氏（当時衆議院議員）のすすめにより、厚生省社会局長視察。老人福祉法制定の足がかりに。
1963年（昭和38）
〈8月〉老人福祉法施行。
1964年（昭和39）
生活保護施設から、老人福祉法「特別養護老人ホーム」として認可。

初代理事長
鈴木生二

市川一二三 氏

山浦ミツ 氏

御殿場十字の園
（定員50名開園）

1966年（昭和41）
〈3月〉ハニ・ウォルフ帰国。
〈4月〉知的障害児施設「小羊学園」開園。
1971年（昭和46）
〈4月〉御殿場十字の園開園（定員50名）、園長として鈴木生二就任。
〈8月〉皇太子（今上天皇）ご夫妻、御殿場十字の園ご訪問。
1972年（昭和47）
〈7月〉皇太子ご夫妻、十字の園、小羊学園ご訪問。
1974年（昭和49）
〈7月〉浜松十字の園第4期増設工事落成（定員120名）。
〈8月〉御殿場十字の園第2期増設工事落成（定員100名）。同園を常陸宮ご夫妻ご訪問。
1978年（昭和53）
〈12月〉御殿場十字の園ショートステイ開始。

伊豆高原十字の園
（定員50名開園）

1981年（昭和56）
〈4月〉伊豆高原十字の園（定員50名）開園。園長 鈴木生二就任。御殿場十字の園園長に森本節夫就任。法人事務局の機能を強化し、各施設の事務を統合。
1982年（昭和57）
〈9月〉伊豆高原十字の園ショートステイ開始。
1986年（昭和61）
〈1月〉林冨美子医師朝日新聞社会福祉賞受賞。
1987年（昭和62）
〈5月〉御殿場十字の園「御殿場市高齢者介護ホーム」事業開始。
〈10月〉特別養護老人ホーム十字の園を「浜松十字の園」に改称。
1988年（昭和63）
〈8月〉綿鍋義典理事長就任。
〈9月〉鈴木生二召天。

アドナイ館（定員50名開園）
御殿場アドナイ館（定員30名開園）

1989年（昭和64）
〈3月〉御殿場十字の園地域福祉センター完成。「痴呆性老人生活指導ホーム」開始。
1990年（平成2）
〈4月〉御殿場十字の園 石原重徳医師、勲三等旭日賞受賞。
1993年（平成5）
〈4月〉ケアハウス・アドナイ館（定員50名）開園。
1994年（平成6）
〈4月〉長谷川保召天。
1996年（平成8）
〈4月〉森本節夫理事長就任。
〈10月〉ハニ・ウォルフ召天。
1999年（平成11）
〈4月〉浜松十字の園増築工事。ショートステイ20床、デイサービスセンター、ヘルパーステーション開設。
〈9月〉平井章理事長就任。

二代目理事長
綿鍋義典

三代目理事長
森本節夫

松崎十字の園（定員50名　併設身障療護20名開園）
伊東市立養護老人ホーム（定員50名受託経営開始）

2000年（平成12）
〈4月〉介護保険法施行。介護保険による事業開始。
〈10月〉ケアハウス・御殿場アドナイ館（定員30名）開園。
2002年（平成14）
〈4月〉松崎十字の園（定員50名。併設身障療護20名）開園。
2003年（平成15）
〈4月〉御殿場十字の園・伊豆高原十字の園　身体障害者ヘルパー及び精神障害者ヘルパー事業開始。
2004年（平成16）
〈4月〉伊豆高原十字の園　児童ヘルパー事業開始。
2005年（平成17）
〈4月〉伊東市立養護老人ホーム（定員50名）受託経営開始。
〈11月〉御殿場十字の園「介護タクシー」事業開始。
2006年（平成18）
〈4月〉御殿場十字の園・伊豆高原十字の園地域包括支援センター受託事業開始。
〈10月〉御殿場十字の園　相談支援事業・移動支援事業開始。
伊豆高原十字の園　移動支援事業開始。
2007年（平成19）
〈4月〉伊東市立養護老人ホーム特定施設入居者生活介護事業（定員20名）開始。
通所介護事業（定員10名）開始。
訪問介護事業開始。
〈5月〉浜松十字の園　地域密着型認知症対応型通所介護事業開始。
2008年（平成20）
〈4月〉浜松十字の園　地域密着型小規模多機能施設開設（予定）。

十字の園のはじまり

「社会福祉法人聖隷保養園」に働く人たちのうち聖隷創業時の純粋な精神を継承して時代の新しい要請に応えようと自然に集まった人たちが、「十字の園」を誕生させる原動力となりました。その中心となったのが、「浜松ディアコニッセ母の家」の姉妹たちでした。

ディアコニッセと十字の園

日本と同じ敗戦国であるドイツのプロテスタント教会のP.G.メラー牧師（ブレーメン教区長）が日本の社会状況視察のために1946年（昭和21年）来日しました。戦災孤児に心を痛めた牧師が「必要ならドイツのディアコニッセを派遣する。」という問いかけに、長谷川保氏が引き受け、来日が決定。1953年（昭和28年）11月、5人のディアコニッセと1人の婦人宣教師が横浜港経由で浜松駅に到着しました。聖隷保養園を手伝いながら、日本語の勉強を続け、そして「浜松ディアコニッセ母の家」を結成します。ディアコニッセたちのなかでもシュヴェスター・ハニ（以降ハニ姉妹）は、日本語を少し習得していたこともあり、ひとりでどこにでも自ら入り、関わるところでは優れた能力を発揮しました。そして彼女の存在が十字の園生みの親の役割を果たすことになります。

老人ホーム建設へ

聖隷保養園で看護婦として忙しく働いていたハニ姉妹は、ある日「聖隷保養園で長い間結婚しないで働いてきた人はディアコニッセと同じ。その人たちが年老ったらどうするのですか。私たちは考えないといけないのじゃないのですか。もうすぐ年老った人々がだんだん増えてきますよね。」と、高齢化社会のことなど考えもしないこの時期に、日本はドイツより10年遅れていると聖隷の仕事仲間に語りかけました。

1957年（昭和32年）の夏のこと、ハニ姉妹が、渋川の山小屋で憩っていたある夜、台風が襲来。大地を揺さぶる激しい風雨による崖崩れで落石が起こり、九死に一生を得た時、ハニ姉妹は「大きな家に一人で寝ているおじいさんや、おばあさんに会いました。お年寄りは一人で寂しいのです。」という夢を見、「私たちの老人ホームはやっぱり一人で寝ている老人のために先にしなければなりません。神様は私にそのことを命じています。」と現在の形の介護老人ホームづくりに一歩踏み出していきます。

ハニ姉妹が募金活動で建設資金を確保

構想している老人ホームを現実のものとするため、ハニ姉妹はその資金を祖国ドイツに求めようと準備を開始。日本の風俗や人情、生活を紹介する芝居を上演してドイツ国内を廻り、献金を募ろうという計画でした。1959年（昭和34年）1月、ドイツに一時帰国。各地の母の家や教会を巡り、600万円の献金を得て4月に再び日本・浜松の地に。この献金額は当時見込まれていた建設資金516万円を上回っていました。

鈴木生二　初代理事長に

1959年（昭和34年）9月、母の家理事会において老人ホーム創設準備責任者に鈴木生二氏が推薦されました。ハニ姉妹が提議した病気を持った寝たきり老人の窮状を自分に与えられた課題として受けとめた鈴木氏は理事長として、全身を傾けてその答えを出す「伝道と奉仕」の働きが、この後1988年に召天するまでの29年間続きました。

また、十字の園の敷地2,406坪は、1960年11月、社会福祉法人聖隷保養園から一坪献金運動で得た資金で入手した敷地の一部を無償で譲渡されたものです。

1961年（昭和36年）1月に、**特望の日本初の特別養護**老人ホームを開設。定員30名のお年寄りに園長以下7名で奉仕を始めました。

介護方針はナーシングホーム

ハニ姉妹は、故郷ドイツの科学的合理主義をバックボーンとしたナーシング方式を採用。自立支援に向け利用者の尊厳を守り、一人ひとりに向かい合い、意思を尊重して必要とされるサービスを積極的に提供することを目指したのです。他の老人ホームとは異なり、大勢での団体行動や規律を重視するのではなく、家族主義を第一としたお世話を心掛けました。このナーシングホームの介護方針は現在のユニットケアを通して全ての十字の園で実践されています。

聖隷とは別の法人組織に

老人ホームのあり方を考える会合を重ねていく中で、ハニ姉妹は「老人ホームは聖隷の法人でなく、別の法人を作ってやりたいと思います。聖隷は大変大きな施設がたくさんあり、長谷川先生はもっと大きく広げていくことでしょう。長谷川先生がいなくなったら、信仰の力より人間の力のほうが強くなってしまい、神様の力ではなく、人間の力で全てを行うようになってしまいます。老人ホームはいつまでも神様の力でやりたい、老人ホームで働く人は、みなキリストの十字架の下でだけ一つになって働く団体にしたいと思います。そのために別の法人にしたいのです。」と話し、同志の仲間たちも賛同し、別法人となることが決まっていきました。また、この主旨から「十字の園」という名前になったのです。十字の園は1960年（昭和35年）12月に、社会福祉法人として認可を得ました。

多くの方の励ましと支援に支えられて

十字の園は寝たきり老人の介護を通して、社会福祉の種を蒔き、広げる役割も果たしました。開園直後から長く愛の散髪奉仕を続けていただいた理髪店ご一家、入所者と文通等の交流をしていただいた中学生、劇や歌等で慰問していただいた日曜学校の子供たち、施設での奉仕活動や募金活動に積極的に協力していただいた青年団や婦人会の方々等、すべて忘れられない人や出来事ばかりです。

1971年（昭和46年）8月　今上天皇・皇后陛下（当時皇太子ご夫妻）が御殿場十字の園を訪問

1984年（昭和59年）11月　ノーベル平和賞を受賞されたマザー・テレサが浜松十字の園を訪問。

一粒の実がたくさんの花を

1961年（昭和36年）に開園した特別養護老人ホームは、鈴木生二氏の「安住するな」「初心に還れ」の姿勢により、1971年に御殿場十字の園、1981年伊豆高原十字の園、1993年アドナイ館（ケアハウス）、2000年御殿場アドナイ館（ケアハウス）、2002年松崎十字の園、そして2005年に伊東市立養護老人ホームの受託経営、と枝を伸ばし、葉を繁らせています。これら十字の園の活動について、監督官庁は「生活保護法の時代に、既に主として寝たきり老人を対象とする養老施設が創設されていた。それは静岡県の十字の園である。これは老人福祉法の特別養護老人ホームの原型として記憶されるべきである。」と評価し、我が国最初の特別養護老人ホームとの見解を示しています。